

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ①グリーン分野(1/5)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
あわじ環境未来島特区 (兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市)	4.6	4.3  進捗度 ・エネルギー(電力)自給率 106% ・二酸化炭素排出量 119% ・再生可能エネルギー創出量 98% ・竹燃料の消費量 22% ・新規就農者数 81% ・再生利用が可能な荒廃農地面積 111% 等	4.6  規制の特例等 ・太陽光発電施設の系統連係に係る迅速な手続の明文化 等  地域独自の取組 ・住宅用太陽光発電システム設置費補助金 ・定住促進事業 等	4.8	<p>・事業開始より高い成果を挙げている再生可能エネルギーをはじめ、全体的に順調に推移している。</p> <p>・太陽光、風力だけでなく、竹チップや農業廃棄物のバイオマスまで展開した再生可能エネルギー事業、地域新電力事業、うちエコ診断やEVなど需要側の取り組み等幅広く優れた取組が行われており、国がカーボンニュートラルを進める上での重要施策である脱炭素先行地域のモデルとなり得る。</p> <p>・評価指標(2)のCO2排出量は、国の目標値が引き上げられたことから、再設定が望まれる。</p> <p>・検討されているFS調査について、玉ねぎなどの野菜加工残渣と下水汚泥との混合メタン発酵の下水処理場併設型の検討は、下水処理場の既設インフラ排水処理能力活用の観点からも有意義。別途、実証研究に取り組まれているバイナリー発電の冷却熱源としての下水処理水の活用など複合的な利用も期待される。</p> <p>・定住人口に加えて交流人口の代替指標による評価が必要。また、再生可能エネルギーの活用、農業振興で着実な成果が上がっており、次の展開のための地域電力事業、交流人口増大の取組と評価を期待。</p> <p>・系統連系の手続きの短縮について制度変更に加えて自治体側の働きかけの内容等について説明を期待する。</p>